

## 平成20年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 コース等名 芸術系コース (音楽)

氏 名 村澤 由利子

プロジェクトの名称	教員採用試験における弾き歌いや、音楽科の授業においてピアノ伴奏の際に必要なとされる読譜力や音楽性を養う教材の開発 —小学校教員養成のためのピアノ教則本(上級)— 「ピアノへのアプローチ」	配分 予算額	601,000円
プロジェクトの概要	<p>本学は、学校教育に関する実践的・理論的な研究を行う「教育のための大学」であり、教育現場における課題解決や、各教科の教材を含む実践的な研究を行う使命を持っている。</p> <p>平成16年度、17年度のプロジェクト経費により「小学校教員のためのピアノ教則本」初級第1巻と第2巻(それぞれ44ページ)を200部ずつ印刷し、完成することができた。さらに平成18年度は、「小学校教員のためのピアノ教則本(中級)」第3巻「ピアノへのアプローチ」(村澤 由利子・森正, 全48ページ)を作成し200部印刷した。内容は、前2巻よりさらに進んだものとなっており、本学の学生・大学院生のみならず特に大学院で勉強している現職教員が、音楽の授業において最低限の知識として必要と思われる楽典や、ピアノの基礎練習を取り入れた。</p> <p>これらの教則本は教員採用試験と密接な関係がある「初等音楽Ⅰ・Ⅱ」の授業に使用できるのみならず、種々のピアノの授業でも、大学院生を含む初歩のピアノ奏者のために使用できるよう考慮した。</p> <p>平成20年度は、「小学校教員のためのピアノ教則本(上級)」第4巻「ピアノ伴奏の大切さ」(村澤 由利子・森正, 全48ページ)を作成し300部印刷した。内容は、これまでの3巻よりさらに進んだものとなっており、本学の学生・大学院生のみならず特に大学院で勉強している現職教員が、音楽の授業において歌唱教材等の伴奏を行なう際に必要とされる基礎的な技能を身に付けるための練習方法や、初見視奏の練習及びピアノの基礎練習を取り上げ、さらにこれらの課題に総合的に取り組む練習曲を掲載した。</p> <p>今回もピアノの授業等の教材として、無料で学生達に配布し使用することとし、さらに小学校教員を目指す人達や、現職教員にも希望があれば配布する。</p>		
成果の概要	<p>「小学校教員のためのピアノ教則本(上級)第4巻」 —ピアノ伴奏の大切さ(村澤 由利子・森 正, 全44ページ)</p> <p>内容</p> <p>I ピアノ伴奏の練習法, 伴奏楽譜の読み方, 伴奏者としての音楽づくりなど, ピアノ伴奏の大切さについて 1. 伴奏とは 2. ピアノ伴奏の練習法 3. 音楽づくりの基本 4. ピアノ伴奏の大切さ 5. 指揮者としての音楽づくり 6. 指揮者との呼吸合わせ 7. 伴奏は独奏ではない 8. 他の演奏を聴く</p> <p>II 初見視奏の練習 初見視奏の練習 課題1～課題38</p> <p>III ピアノの基礎練習 1. スケールの練習と運指 2. アルペジオの練習と運指 3. 和音を弾くときの指の確立と運指 4. 二つの和音を弾く場合</p> <p>IV 楽しい練習曲(バロックからロマン派) 前3巻より進んで、ピアノを練習する上で必要とされるテクニックと音楽性が身に着くよう、バロックからロマン派までテレマン、クラーマー、ツェルニー、シューベルト、ショパン、シュトラウスの6曲による練習曲。</p> <p>以上のように、これまでに作成した3冊の教則本の内容がさらに進んだものとなっている。特に現職教員が歌唱教材等の伴奏を行なう際に必要な技術等について自学自習の際にも使用出来るように、それぞれ解説を含め、進度に無理なく応じるなどの配慮がなされている。</p>		